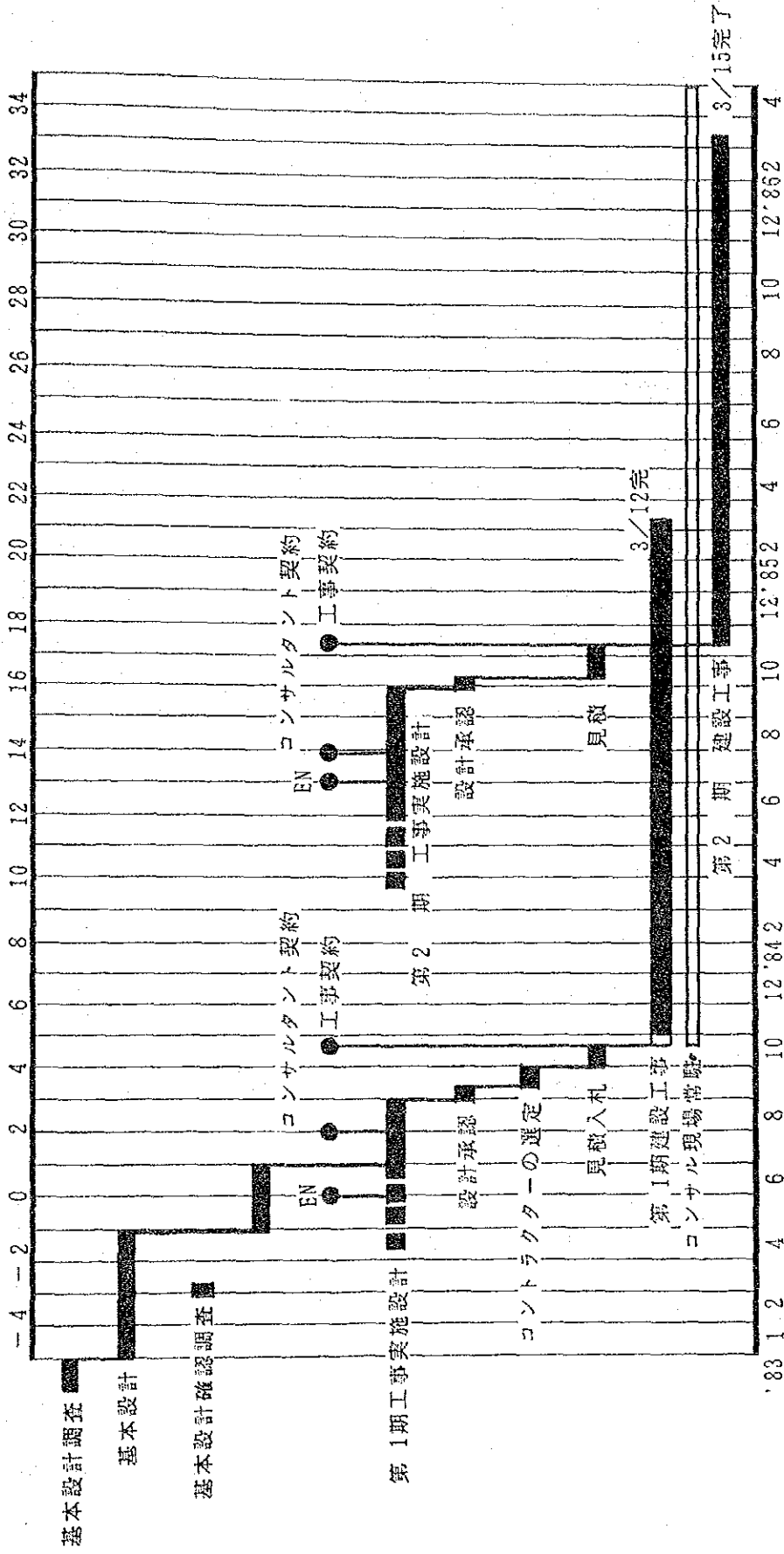


4-7-6 建設工程計画

本プロジェクトによって建設される施設は延10,000㎡を超える規模に達するため、所要資材調達の困難さ、施工能力の限度など同国の建設事情のもとでは所要建設工事期間も2年を優に超えるものと判断される。

従って本プロジェクトの実施は二期に分割することが妥当と判断される。其の場合の工程は以下の表に示すとおりである。

建設工程計画



NURSE TRAINING CENTRE

4-7-7 建設資材、機材の調達

本センター建設実施に当り、資機材の調達は日本、ビルマ、及び第3国での調達が考えられる。

建設労働調達については C.C (Construction Corporation) に依頼することが原則であるが、C.Cに属さない4~5人のプライベートな組織で、鉄骨、溶接、等の C.Cでの調達よりもレベルの高いグループがあり、比較的高賃金であるが、日本側コントラクターの下請として使用出来るケースもある。又ビルマ国内に於て、経験の少ない鉄骨工事、鋼製建設、金物工事等は予想以上に高い工事費につながり、この事が全体の工事費を押し上げているとも考えられる。コンクリート工事(特に仮枠、墨出し等)、鉄骨、金属、鋼製建具内装、(軽鉄組立、ボード貼り等)、塗装、電気設備等に付いては、スーパーバイザーの派遣により、現地労働者の技術指導が必要であり、施工途次効率の良い派遣計画を立てる事が重要である。また、現地の労働事情を事前にキャッチする事が必要である。

1) 現地調達資材で考えられるもの。

- a) セメント、骨材(砂岩、砂利)及び、セメント二次製品
- b) レンガ(仕切壁及び外部各所に多用途に使用)
- c) スレート(屋根材)
- d) 木製建具(但しモスキートネット等の必要ある場合は支給)
- e) 一般家具及び学習、実験用木製家具(但し耐熱、耐薬品性能を必要とする製品は調達できない。)
- f) 木材一般

2) 日本或は第三国からの調達が予想されるもの

- a) 鉄筋、鉄骨(出来得る限り加工品として)
- b) 鋼製建具
- c) 硝子(現地調達可能であるが品質は非常に劣る。使用個所により可)
- d) 塗装材料
- e) 内装材(軽鉄ボード、床材等)

- f) 建設用機械（パッチャープラント、コンクリート打設用機材、車輛等）
- g) 仮設用資機材（仮枠用合板及び支持金物、サポート用資材足場材、工具類、他）
- h) 配管類（エンピ、鋼製）
- i) 電線類、盤類、照明器具（特殊なもの、他は現地調達可）、変圧器他
- j) ポンプ、ケーシング及び、鋼管類
- k) 空調器材（シーリングファンに付いては現地調達可）
- l) 各種弁類、衛生器具（現地調達可但し製品のバラツキ及び数量に問題）

現地調達資器材に付いては、建設公社（C.C）を通じて、それぞれの担当公社より供給を受ける。但し要量の割り当てが適切な時期に揃う事は非常に稀であり、相当以前からの対応が必要である。しかし現地資器材の使用は完成後のメンテナンス等の上からも有利である。

日本及び第3国からの調達資材に付いては、5%程度の余剰材の確保と保管を徹底する事によりより良い保守管理を期待出来る。

第 5 章 概算事業費

第5章 概算事業費

本センターの施設規模、設備、機材の内容から判断した建設費の概算は次の通りである。

(1) 積算条件

- ・ 概算算出時点 1982年2月
- ・ 外国為替交換率 1ドル = 240円 = 8チャット
- ・ 工事期間 1983年11月より 29ヶ月
- ・ コントラクター 日本法人による施工会社への一括発注
- ・ 建設工事に必要な仮設機材の持込みに対する関税及び日本側施工会社にかかる現地での各種免税措置。

(2) 概算工事費

本概算工事費は次の通りである。

	日本側負担	相手国側負担	計
建設費	2,653.197	72.930	
資機材費	60.000		
コンサルタント料	226.668		
予備費	46.696		
合計	2,986.561		3,059.491

(3) 積算根拠

本概算工事費は1982年12月現在のデータに基づいて算出されたものである。

(4) 無償資金援助が期待される工事費

次のような二つの場合が考えられる。

A案 1期工事に校舎、女子宿舍(B)、食堂及び機械室を含み、男子宿舍
を含まない場合

	1 期	2 期	合 計
建設費	1,751,110	902,087	2,653,197
資機材費	60,000		60,000
コンサルタント料	149,601	77,067	226,668
予備費		46,696	46,696
	1,971,130	1,015,431	2,986,561

B案 1期工事から、男子宿舍を除外する場合

	1 期	2 期	合 計
建設費	1,565,386	1,087,811	2,653,197
資機材費	60,000		60,000
コンサルタント料	133,734	92,934	226,668
予備費		46,696	46,696
計	1,762,071	1,224,490	2,986,561

(A) 案

PROM ROAD

PHONEGYI ROAD

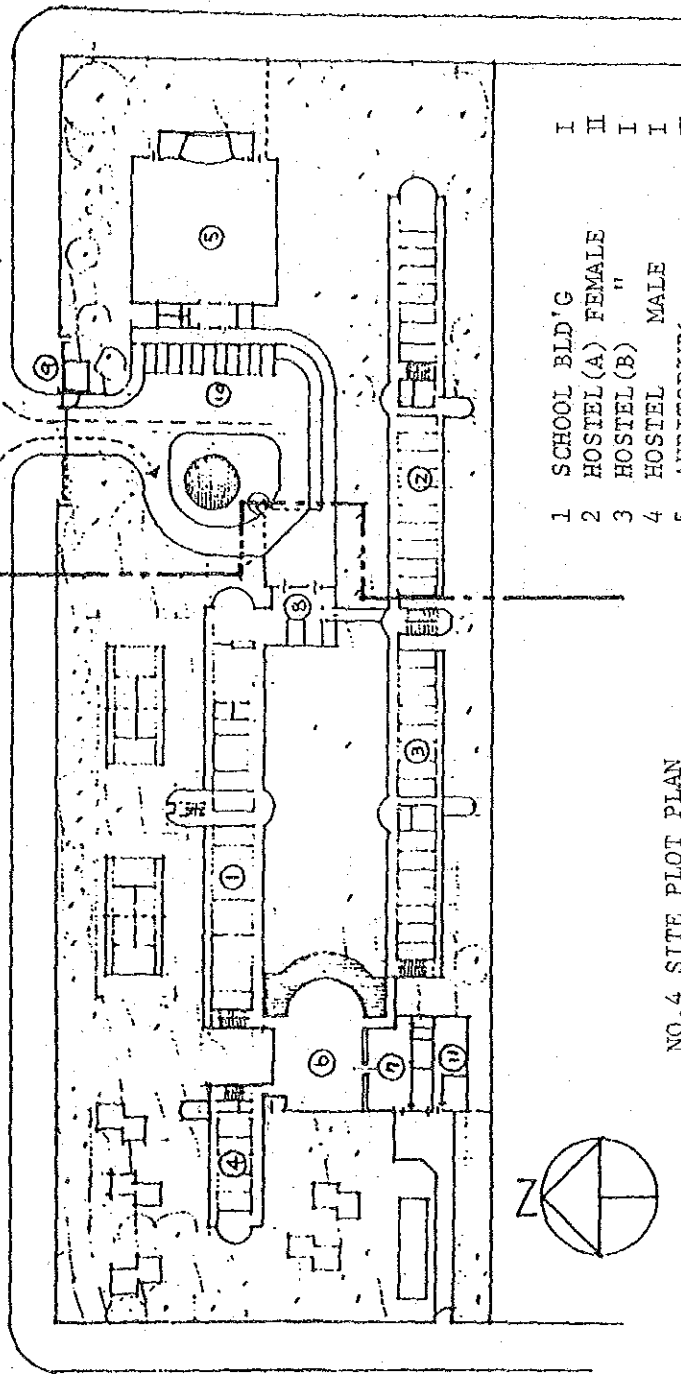
OLD JAIL

STAGE I ← → STAGE II

BOGYOKE AUNGSAN ROAD

ONE WAY →

LANTH LOAD



- 1 SCHOOL BLD'G
- 2 HOSTEL (A) FEMALE
- 3 HOSTEL (B) "
- 4 HOSTEL MALE
- 5 AUDITORIUM
- 6 DINING ROOM
- 7 KITCHEN
- 8 ENTRANCE
- 9 GUARD HOUSE
- 10 PARKING
- 11 SERVICE BLD'G

NO. 4 SITE PLOT PLAN



NURSES TRAINING CENTRE PROJECT IN BURMA

第 6 章 維持管理計画

第6章 維持管理計画

本センターの運用を円滑に行うためには運営母体である保健局 (Department of Health) の予算措置と運営、維持体制が必要であるが、予算措置については FERD (Foreign Economic Relation Department) も又、その支援を確約している。

6-1 維持管理計画

本センターは設立後、保健局に直屬して、DOH により任命される所長の下に職員が配置され、教育及び運営にあたる。

維持管理は次の各部門、即ち教育部門、管理部門、施設の運転及び保守部門によって実施される。

教育及び管理はセンター自身によって実施されるが、建物及び設備機器の運転及び保守は建設公社に委託される。

運営維持管理計画

当センターはまず、極力省エネルギーに徹した施設である事を目標としているが、メンテナンスに付いても、特別な技術を要しない程度の平易さを求めて計画している。又、竣工以前より建物の維持管理方法の教育及び各機器の取扱い方、目視による確認と補修方法の説明、竣工後の各機器の運転迄の細目を伝授すると共に、修理、補修、備品調達のある場合の日本国内の体制を充分対応出来るものにする。

6-2 運営維持管理の費用

6-2-1 概算

運営維持管理費の主なるものは人件費と光熱用水費である。調査及び収集資料によって本センターの年間運営維持管理費を概算すると次のように試算される。

人件費	職員給与	188,484	Kyats
	訓練生給付金	504,000	"
	備人給与	48,000	"
光熱用水費		236,000	"
雑費		30,000	"
計		1,006,484	"

此の費用に対し、これまでのラングーン総合病院訓練校の年間予算は次の項目に記載するとおりである。

本センターの場合には、この予算に比して倍以上の経費を必要とするが保健省における看護部門予算に比して過大なものとは認められないので、必要な費用は十分に賄われ、本センターは此の面でも十分に機能するものと判断される。

ラングーン総合病院及び関連部門の予算額

保健省予算割当、看護婦／助産婦／公衆衛生派出婦の訓練に対する看護部門予算およびラングーン総合病院訓練校の77-78から82-83年度の予算は下記の通りである。単位はチャット。

保健省予算

	77-78	78-79	79-80
保健省予算	205,751,369	222,984,063	234,737,008
看護部門予算	2,245,730	2,036,879	2,085,307
	80-81	81-82	82-83
保健省予算	250,035,682	316,536,715	313,208,210
看護部門予算	2,065,848	2,307,760	2,424,688

ラングーン総合病院校予算

	77-78	78-79	79-80	80-81	81-82	82-83
給与		47,700	11,354	45,984	54,684	55,884
訓練生 手当		274,500	231,300	269,400	282,600	289,800
雑費		2,000	1,500	1,000	500	1,000
計		324,200	244,154	316,384	337,784	346,684

ただし、ラングーン総合病院訓練校の雑費（電気料金、維持修理費その他）は、ほとんどラングーン総合病院の予算でまかなわれている。

保健局の説明によれば、本センターの運営維持費は、第四次4ヶ年計画から予算割当を受けることになる。

6-2-2 光熱用水費

本センターにおける、各設備のランニングコストを試算すると、下記の通りである。

電力量の試算

校舎	$160\text{KW} \times 7\text{時間/日} \times 22\text{日/月} \times 0.4 = 9,856 \text{ KWH/月}$ (稼働率)
寮	$180\text{KW} \times 8\text{時間/日} \times 30\text{日/月} \times 0.5 = 21,600 \text{ "}$
講堂	$24\text{KW} \times 4\text{時間/日} \times 15\text{日/月} \times 0.5 = 720 \text{ "}$
動力	$40\text{KW} \times 24\text{時間} \times 30 \text{日/月} \times 0.6 = 17,280 \text{ KWH/月}$
合計	48,736 KWH/月

電力料金の算定

一般用電力使用料は、	100KWH 以下	0.46 K
	100KWH 超, 300KWH以下	0.42 K
	300KWH 超	0.40 K

従って電力料金は次のようになる。

$$\begin{aligned} & 100\text{KWH} \times 0.46 + 300\text{KWH} \times 0.42 + 48,336\text{KWH} \times 0.40 \\ & = 19,666\text{Kyats/月} \end{aligned}$$

水道料金に付いては、井水の使用を原則としており、揚水に必要な電力は電力料金に含まれているので、水道料金は計算の対象外とした。

第7章 事業評価

第7章 事業評価

本プロジェクトの目的とする、看護助産婦の養成量増大と教育内容の質的向上に関しては、次のように評価することが、出来る。

計画されている施設と教育機材の規模は、増員予定数に見合ったものであって、本プロジェクトの完成によって、看護助産婦の増員が、可能になり、これまでの養成員数に対して20%増が、実現されるので、不足状態の解消、医療サービスの充実に充分寄与することが、期待できる。

これまでの看護教育はその中心的存在としてのラングーン総合病院看護学校の場合に於てすら、病院の一部に限られた施設と使い古された少数の教材という制約を受けて、教育的内容は必ずしも充実したものとは言えず、一学級60名という過剰な学級編成では教育効果も期待出来ない状態にあった。

本プロジェクトの実施によってこれらの制約が、解除されることは、確かで、充実したカリキュラムによる教育の実施によって、教育内容の質的な向上も可能になる。

また、適正な学級編成による教育効果の向上も加わって、本センターに於ける看護教育のレベルは、これまでのものより一段と向上したものとなり、施設の規模内容及びその立地条件の良さも手伝って、本センターが、看護教育のモデルセンターとして機能することを確信できる。

本センター設立後は、正規の過程を修了した看護助産婦が全国各地の医療の第一線に送り出されて、各地の医療保健サービスの充実に直接寄与するほかに、波及効果によって質的な向上にも貢献することが、期待できるので本センター設立の意義は、大きく、有効なプロジェクトであると評価することが、できる。

本センターの設立のためにビルマ国政府負担が予定されている工事範囲は、第5章、工事範囲に記述されている通りで、費用の総額は、基本設計調査の見積りによると概ね2,431,000Kyatsであった。この費用は第4次4年計画の予算によって賄われるもので、ビルマ側の工事が本センターの機能に支障のないよう、遂行されるならば、費用の面からの問題はないものと評価できる。

運営及び維持管理に要する費用は、年間概算 1,007,000Kyats と見積られるが保健省保健局の予算によって賄われ、その相当部分を占める光熱費については、適切な運転と管理によって軽減も可能なので、これもまた、費用の面からの問題は、ないものと評価できる。

本センターの運営管理体制は校長の下に教育部門、管理部門によって構成されており、本センターの目的機能に支障はない。

本センターの機能にとって重要な意味を持つ教員については、第3章 3-4 教師に記述されている通り、量質ともに今後の運営についての支障はないものと評価できる。

これまでに述べた如く、本センターの設立後は、年間160人の正規の教育を受けたレベルの高い看護／助産婦を養成することが、可能になり、医療保健事情の改善に直接貢献することのほかに、同国看護教育のモデル校として将来にわたって機能し続けることが、確信されるので、本センター設立の意義は大きく、有効なプロジェクトであると評価出来る。

第 8 章 結論 提言

第8章 結論・提言

1) 結論

これまでに述べてきたように、看護・助産婦の養成量増大と教育内容の質的向上を目的とするセンターを建設することによってビルマ国の医療保健事情の改善に貢献させようとする本プロジェクトは、実施後の効果とその持続性について評価した結果十分に効果のある意義のあるプロジェクトという結論を得た。

本プロジェクトが我が国の無償資金協力によって実現される意義は大きく、早急な実施が望まれる。

2) 提言

(1) 下記各項目に対するビルマ側の早急な実施と積極的な支援が望まれる。

- ・ 建設用地に関するビルマ側の準備工事、既存建物の除却整地（但し、建設に関わりのない部分の樹林は存置することが望ましい。）
- ・ 仮設電力並びに用水補給の為の基幹設備工事。
- ・ 現地調達資材の時機に即した確保。
- ・ 国外調達資機材の輸入通関手続及び現場搬入を迅速に行なうこと。

(2) ビルマ国所有の仮設用資機材のうち使用可能なものについては積極的な提言が望まれる。

資料

付属資料一

1-1	ビルマ国関係者	1
1-2	基本設計調査	
1-2-1	基本設計調査団の構成	3
1-2-2	基本設計調査団の日程	4
1-2-3	ミ ニ ッ ツ	6
1-3	基本設計確認調査	
1-3-1	基本設計確認調査団の構成	16
1-3-2	基本設計確認調査団の日程	16

1-1 ビルマ国関係者

a. Department of Health

Dr. Khin Maung Nyein	Director General
Dr. Kyaw Sein	Director
Dr. Thein Dan	Deputy Director (Planning)
Dr. Than Win	Deputy Director (Training)
Dr. Than Zaw	Medical Officer
Daw Tin Kyi	Assistant Director (Nursing)
Daw Saw Yi	Deputy Nursing Chief
Daw Saw Yin	Deputy Nursing Chief
Naw Winsome Myaing	Sister Tutor

b. FERD

U Thein Myint	Director General
U Myint Htu	Assistant Director

c. Construction Corporation

U Win Kyu	Staff Officer I (Q.S. & Research)
U Aung Myint	S. O. I. (Architect)
U Kyi Sein	S. O. II. (Architect)
Mr. E. de Souza	S. O. II. (Q.S. & Research)
U San Pe	S. O. II. (Q.S. & Research)

d. Rangoon City Development Committee

U Thein Naing	Deputy Head, Water & Sewage Dept.
U Khin Maung	Deputy Head, Water & Sewage Dept.

e. Electric Power Corporation

U Kyaw Myint	Divisional Engineer (Rangoon Division)
U Htun Shein	Executive Engineer
U Aung Khin	Assistant Engineer
Daw Shwe Pyi	Assistant Engineer

f. Rangoon General Hospital, General Nursing School & Dormitories

Dr. U Khin Maung Gyi	Medical Superintendent
Dr. U Tin Aung Tun	Deputy Medical Superintendent
Daw Graung	Nursing Superintendent
Daw Tin Tin Nyunt	Assistant Nursing Superintendent
Daw Khin Hla Shwe	Sister Tutor

g. North Okkalapa General Hospital

Dr. Mya Maung	Medical Superintendent
Dr. Min Thu Aung	Assistant Medical Staff I
Daw Khin Htwe	Matron
Daw Say Ku	Sister Tutor
Daw Mai Chit San	Ward Sister
Dr. Khin Than Swe	A. M. S. II

h. East Rangoon General Hospital

Dr. Myint Thein	Medical Superintendent
Dr. Tin Tin Hla	Deputy Medical Superintendent
Daw Chit Si	Matron
Daw Hla Yin	Sister Tutor

i. Institute of Medicine (I)

Dr. Tun Min	Rector
-------------	--------

資料編 I 関連資料

1-2 基本設計調査

1-2-1 基本設計調査団の構成

基本設計調査は、2回に渡り行われ、第1次調査は、昭和57年11月21日より、12月3日迄の13日間、第2次調査は、昭和57年12月11日より、12月31日迄の21日間に渡り実施された。団員の編成は、下記の如くであった。

(1) 第1次調査団

団 長	都 築 公	社会保険中央看護 専門学校 副校長
団 員	樋口 康子 看護教育	日本赤十字社幹部 看護婦研修所 教務部長
団 員	竹内 一郎 協力企画	財国際看護交流協会 理事 事務局長
団 員	木邨 洗一 計画・管理	国際協力事業団 無償協力資金部

(2) 第2次調査団

団 員	蛭川 一男 総括、建築計画	財松田平田坂本設計事務所 取締役
団 員	井形 義男 建築設計	財松田平田坂本設計事務所
団 員	松田 純男 構造、積算	財松田平田坂本設計事務所
団 員	大谷 清喬 設備、機材計画	財松田平田坂本設計事務所

1-2-2 基本設計調査団の日程

第1次調査 日程

日順	月日	曜日	行動及び調査内容
1	11月21日	日	東京→バンコック
2	22日	月	バンコック→ラングーン, 保健省関係者と事前打合
3	23日	火	日本大使館, JICA, FERD, 保健省, 保健局表敬訪問, 打合
4	24日	水	保健局協議
5	25日	木	サイト, I, II Womans Hospital, East Rangoon General Hospital視察
6	26日	金	Children Hospital, Rangoon General Hospital視察
7	27日	土	保健局協議, ミニッツ案提示
8	28日	日	
9	29日	月	保健局, ミニッツに係る協議
10	30日	火	
11	12月1日	水	保健局, ミニッツ署名交換, 日本大使館報告
12	2日	木	JICA事務所報告, ラングーン→バンコック
13	3日	金	バンコック→東京

第2次調査 日程

1	12月11日	土	東京→バンコック
2	12日	日	バンコック→ラングーン, 保健省関係者と事前打合
3	13日	月	日本大使館, JICA, 保健省, 保健局, 訪問, 調査内容報告, 日程打合せ
4	14日	火	サイト, II, III調査, Central Womens Hospital 視察及び, 施設調査
5	15日	水	保健局, 要請内容の詳細打合せ

日順	月日	曜日	行 動 及 び 調 査 内 容
6	16日	木	Rangoon General Hospital施設視察 保健局打合せ, サイトIVの提示を要請 PBRD表敬, 打合せ
7	17日	金	North Okalapa General Hospital施設視察 保健局打合せ, サイトIV視察 East Rangoon General Hospital 施設視察
8	18日	土	サイトIV調査, 検討
9	19日	日	資料検討, 分析
10	20日	月	日本大使館にて中間報告, 及び打合せ(蛭川) Medical College 施設, 視察, 保健局打合せ
11	21日	火	Construction Corporation訪問, 打合せ 工事現場視察, 保健局打合せ
12	22日	水	保健局打合せ Rangoon City Development Committee, Electric Power Corporation 打合せ
13	23日	木	保健局打合せ, 経済事情調査
14	24日	金	保健局打合せ(施設器材全般)
15	25日	土	資料収集, 整理
16	26日	日	資料収集, 整理
17	27日	月	保健局打合せ(運用組織, 予算等) 日本大使館, JICAに経過報告
18	28日	火	保健局打合せ, 建築事情調査
19	29日	水	保健局打合せ
20	30日	木	ラングーン→バンコック
21	31日	金	バンコック→東京

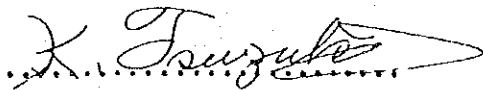
MINUTES OF DISCUSSIONS
ON
THE NURSES TRAINING CENTRE PROJECT
IN
THE SOCIALIST REPUBLIC OF THE UNION OF BURMA

In response to the request by the Government of the Socialist Republic of the Union of Burma, the Government of Japan has sent, through the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), a team headed by Ms. Kimi TSUZUKI (Vice President, Social Insurance, Central School of Nursing) to conduct a Basic Design Study of the Nurses Training Centre Project in Rangoon (hereinafter referred to as "the Project") from 22nd November to 2nd December 1982.

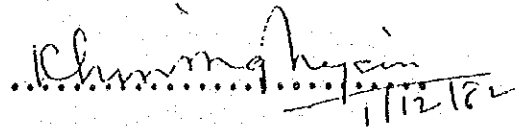
The Team has conducted the field survey and held a series of discussions and exchange views with the official concerned of the Government of Burma.

Both parties have agreed to recommend their respective Governments and authorities concerned to examine the results of the study attached herewith toward the realization of the Project.

1st December, 1982



Ms. Kimi TSUZUKI
Team Leader, Japanese Study Team
J I C A



DR. KHIN MAUNG NYEIN
Director General,
Department of Health,
Ministry of Health,
The Socialist Republic of the
Union of Burma.

ATTACHMENTS1. The Objectives of the Project

The objectives of the Project are to increase the production of the nurses and to improve the quality of nursing training by constructing a Nurses Training Centre (hereinafter referred to as the Centre). The Centre will serve as the model centre for training of nurses and will contribute to the improvement of health situation in Burma.

2. The Executing and Coordinating Agency of the Project

Department of Health,
 Ministry of Health,
 The Socialist Republic of the Union of Burma.

3. The Activities of the Centre

1. In accordance with the changes in the system of nursing education in Burma since 1980, the Centre will provide 3 years and 6 months training course.

The curriculum is shown as in Annex - 1.

The Centre will admit 80 trainees every 6 months with a total of 160 per year.

After the completion of the training programme and passing the State Examination, the trainees will be qualified as Registered Nurses and Registered Midwives.

2. The Centre will provide training facilities which would improve the quality of nursing training.

4. Proposed Site

The proposed site for the Centre is the property of Department of Health.

The Site is shown in the attached map.

If the space is not sufficient, the Department of Health will make available another site.

K. T.

K. T.

5. Undertaking of Japanese Study Team

The Japanese Study Team will convey the desires of the Government of Burma to the Government of Japan that the latter will take necessary measures to cooperate in the implementation of the Project by providing items as listed in Annex-II within the scope of Japanese economic cooperation in grant form.

6. Measures to be taken by the Burmese Side

The Government of Burma will take necessary measures as listed in Annex - IV on condition that the grant assistance by the Government of Japan is extended to the Project.

7. Notes

The scale of the Centre is subject to change after detail study by the Japanese Architectural Team.

K.T.

SYLLABUS FOR THE BASIC NURSING EDUCATIONFIRST YEAR

1. Available hours : 30 hs x 4 ws x 11 months = 1520hs.
2. School hours : 6 hours/day, 5 days/week
3. Vacation : 1 month/year

<u>SUBJECTS</u>	<u>Lectures</u>	<u>S.Practice*</u>	<u>C.Practice**</u>
1. Social Science & Allied Arts			
History of Nursing	10		
Present Trends & Nursing Problems	15		
Ethics Applied to Nursing	10		
Personal & Professional Adjustment	6	4	
General Psychology	15		
2. Basic Sciences			
Anatomy and Physiology	105	25	
Physics and Chemistry	50	50	
3. Personal & Communal Health			
Personal Hygiene	10		
Community Hygiene	10	20	
Health Education	10		
Physical Education		20	
4. Medicine (clinical)			
Drugs and Solutions	10	10	
Microbiology & Principles of Asepsis	16	9	
5. Nursing & Allied Arts			
Principles & practice of Nursing I	90	150	
First Aid	15	15	
Nutrition & Dietetics I	20	11	
6. Others			
Preliminary state Exam.	15		
Extra Curricular Activities		15	
Registration, physical Exams.		10	
7. Clinical Practice (2 days/w)	---	---	<u>574</u>
TOTAL	<u>407</u>	<u>339</u>	<u>574</u>

* School Practice

** Clinical Practice

K. T.

SECOND YEAR

1. Available hours : 1320 hs.
2. School hours : 6 hours/day, 5 days/week
3. Vacation : 1 month/year

<u>SUBJECTS</u>	<u>Lectures</u>	<u>S.Practice</u>	<u>C.Practice</u>
Internal Medicine and Nursing	60		
Pharmacology	24		
Principles and practice of Nursing II	40	85	
Infectious Diseases	16		
Skin Conditions and Nursing	8		
Nutrition and Dietetics II	14	6	
Venereal Diseases	4		
Tuberculosis	10		
Surgery and Surgical Nursing Care	48		
Ophthalmics and its Nursing Care	8		
Ear, Nose and Throat	10		
Orthopedics and its Nursing Care	10		
Extra Curricular Activities		55	
State Examination	15		
Medical Exam.		5	
Clinical Practice (20.5 hours/3 $\frac{1}{2}$ days/w whole day for 2 days, half day for 3 days)			902
TOTAL	267	151	902
	++++	=====	=====

W. M. N.

K. T.

0
THIRD YEAR

1. Available hours : 1320 hs.
2. School hours : 6 hours/day, 5 days/week
3. Vacation : 1 month/year

<u>SUBJECTS</u>	<u>Lectures</u>	<u>S.Practice</u>	<u>C.Practice</u>
Theatre Procedures	15	10	
Anaesthesiology	8		
Pediatric & Pediatric Nursing	30		
GYN & GYN Nursing	16	8	
Mental Disorder & Nursing	24		
Public Health I	30	40	
Public Health II	24	40	
Extra Curricular Activities		70	
Physical Exams.		5	
Final Exams. (include preparation)	64		
Clinical Practice (21.5 hs/3½ days/w whole day for 2 days and half day for 3 days)			936
TOTAL	211	173	936

6 MONTHS MIDWIFERY COURSE

1. Available hours : 720 hs.
2. School hours : 6 hours/day, 5 days/week

<u>SUBJECTS</u>	<u>Lectures</u>	<u>S.Practice</u>	<u>C.Practice</u>
1. Introduction to Midwifery, history, ethics, etc.	2		
2. Female Sex Organs Anatomy & Physiology	10		
3. Normal Pregnancy & Delivery	18	20	
4. Normal Delivery and Nursing Care	12	10	
5. Care of New born Baby (Normal and Abnormal)	29	10	
6. Abnormal pregnancy & delivery	28		
7. Disease with pregnancy	30		
8. Care of baby & school child	30		
9. State examination	15		
10. Clinical practice (21 hs / 3½ days/w)			506
TOTAL	174	40	506

EQUIPMENTS

<u>SR.No.</u>	<u>ARTICLES</u>	<u>QUANTITY</u>
1.	Plain Paper Copying Machine including accessories	2
2.	Duplicating Machine (Automatic)	2
3.	Duplicating Machine (Manual)	2
4.	Typewriter (English)	4
5.	Over-head Projector (220 - Volts)	6
6.	Slide Projector, remote control, Automatic slide changing or Manual slide changing	6
7.	Screen Roll-up type	6
8.	Movie Projector (16)mm with Projector screen	2
9.	Calculator medium size	5
10.	Short wave wireless amplifier and speaker	5
11.	Anatomical charts for all Body Systems	2 sets
12.	MODELS for Anatomical Illustration	2 sets
13.	Pelvis and Foetal Dolls	6
14.	Skull (Foetal)	6
15.	Sculptured Skeleton	4
16.	Steel Cabinet	20
17.	Weighing Machine (Adult)	2
18.	Weighing Machine (Baby)	2
19.	Sterilizer	3
20.	Microscope	40
21.	Refrigerator (large)	3
22.	Incubator for Media Lab.	2
23.	Fixed type centrifuge, capacity: 50 ml x 4	2
24.	Balance capacity 200 g, sensitivity 1 mg.	1
25.	Weights for above, 1 mg - 100 g	3
26.	Thermometer, 140-200 degree C	6
27.	Sphygmomanometer	10
28.	Stethoscope	10

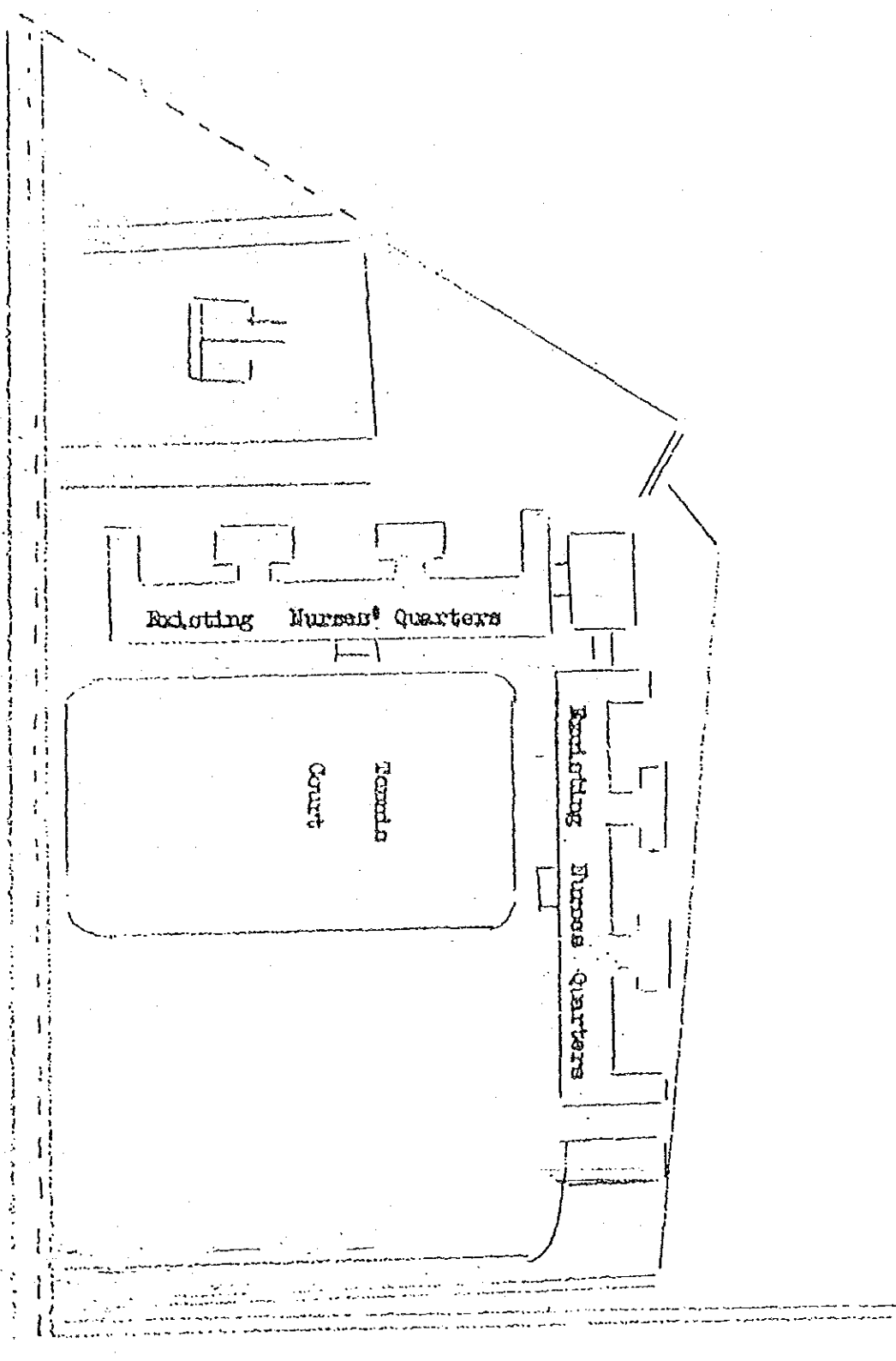
K. T.

K. T.

1. To secure necessary land for the construction.
2. To clear, fill and level the site of the Centre when needed before the construction starts.
3. To provide data and information necessary for the Project.
4. To provide facilities for distribution of electricity, water supply, drainage and other incidental facilities within the scope of Japan's Grant Aid Programme.

SCALE = 1" = 100 FT.

I R E D ROAD



A. T.

LC

1-3 基本設計確認調査

1-3-1 基本設計確認調査団の構成

基本設計確認調査は、昭和58年2月27日より3月31日まで、13日間にわたり実施された。

調査団は、社会保険中央看護専門学校副校長 都築 公氏を団長として下記のとおり編成された。

団長	都築 公		社会保険中央看護専門学校副校長
団員	木邨 洗一	計画管理	国際協力事業団無償資金協力部
団員	蛭川 一男	建築計画	㈱松田平田坂本設計事務所 取締役
団員	井形 義秀	建築設計	㈱松田平田坂本設計事務所

1-3-2 基本設計確認調査団の日程

日順	月日	曜日	行動及び調査内容
1	2月27日	日	東京発、バンコック着
2	28日	月	バンコック発、ラングーン着、日本大使館訪問、打合。
3	3月1日	火	保健局、ドラフトレポート提出概要説明、FERD表敬訪問
4	2日	水	国内打合
5	3日	木	保健局、ドラフトレポート内容討議
6	4日	金	保健局協議、ミニッツ署名交換
7	5日	土	サイトIV視察
8	6日	日	
9	3月7日	月	日本大使館訪問、調査結果報告 都築団長、木邨団員出発、残留団員C.C. 打合
10	3月8日	火	都築団長、木邨団員帰国 残留団員、保健局、病院建設現場、C.C. 訪問、打合
11	9日	水	C.C. 保健局、打合
12	10日	木	蛭川、井形両団員 日本大使館、JICA、保健局帰国挨拶、 ラングーン発バンコック着
13	11日	金	バンコック発 東京着

JICA

